

平成 19・20 年度 土木学会複合構造委員会 第 9 回幹事会議事録（案）

1. 日 時：平成 20 年 9 月 11 日（木）14：00～17：00
2. 場 所：鹿島建設 東北支店 2F プレテニールーム
3. 出席者：中島委員長，渡辺幹事長，池田幹事，大山幹事，葛西幹事，島幹事，田中幹事，西崎幹事，古市幹事，溝江幹事，山口幹事（欠席者：横田副委員長，大垣幹事，杉浦幹事，武知幹事，本間幹事）（敬称略）
4. 配布資料
資料 幹 9-1 第 8 回幹事会議事録（案）
資料 幹 9-2 建築学会との情報交換会
資料 幹 9-3-1 土木学会論文集改革の基本方針等の確認について（ご依頼）
資料 幹 9-3-2 資料 1 土木学会論文集改革の基本方針と実施手順
資料 幹 9-3-3 「出版会計の課題と改善策 案」英文図書の取り扱いについて
資料 幹 9-3-4 別紙 1 出版会計の課題と改善策（英文図書の対応）について（協力のお願い）
資料 幹 9-3-5 別紙 2 「出版会計の課題と改善策（案）」英文図書の取り扱いについて
資料 幹 9-3-6 別紙 3 現在販売中の英文刊行物の 19 年度末時点の収支状況
資料 幹 9-4-1 平成 21 年度出版企画書
資料 幹 9-4-2 出版企画書「FRP 歩道橋の性能規定型設計ガイドライン（案）（仮称）」
資料 幹 9-4-3 出版企画書「FRP を用いた鋼部材の補修・補強の設計・施工（仮称）」
資料 幹 9-5 現状調査小委員会・新材料小委員会合同講習会報告
資料 幹 9-6-1 第 3 回 FRP 複合構造・橋梁シンポジウムの実施について
資料 幹 9-6-2 FRP 歩道橋設計ガイドラインのとりまとめ状況について
資料 幹 9-7 新小委員会の設置の件（メモ）
5. 議事次第
 - (1) 第 8 回幹事会議事録案の確認（資料 幹 9-1）
山口幹事より第 8 回幹事会議事録案について説明があり，承認された。
 - (2) 建築学会との情報交換会（資料 幹 9-2）
中島委員長より，7/24 に行われた建築学会との打合せ内容について説明があった。
 - ・ 複合構造シンポジウムに関しては，シンポジウム小委員会が建築学会との窓口となる。
 - ・ シンポジウムのタイトルに“第 8 回”を入れるように建築学会に申し入れる。
 - ・ 年度内に建築学会と示方書や規準に関する情報交換を行う。
 - (3) 土木学会論文集改革基本方針および英文図書の対応（資料 幹 9-3-1～9-3-6）
渡辺幹事長より論文集編集委員会からの「土木学会論文集の改革基本方針」について説明があった。その後，葛西幹事より論文集編集委員会の最近の動向について説明があった。また，出版委員会からの「英文図書の対応」について渡辺幹事長より説明があった。
それぞれの審議事項に対して以下のような意見があった。
(a)土木学会論文集の改革について
 - ・ 各調査研究部門（委員会）に直接，論文集再編の動向が文面にて届くのではなく，本来，調査研究部門を統括する研究企画委員会を通じてこのような情報が届くのが筋であるとの意見が出

された。

- ・部門再編後、各調査研究部門に各部門の編集権がおりてきた際、その編集会議にかかる具体的な実務、経費に関する説明がないので、なかなか判断しづらいとの意見が出された。これに対し、葛西幹事より、再編の具体的な動きは本年より開始している（5ヶ年かけて実施される）ため、まだ、具体的なところはあまり決まっていないと思われる、との意見が出された。
- ・論文集編集委員会部門A編集小委員会に、複合構造委員会関係者から1名選出するようにするのがいいのでは、との意見が出された。これは、編集小委員会にて論文集再編の動向に関する具体的な情報を入手できるメリットがあるためである。現在の部門A小委員会の山口委員長（埼玉大）に相談することとなった。
- ・構造工学委員会において、部門Aの分野の再編を検討していただくのがよいのではないかと。
- ・現行では、複合構造委員会では査読付き論文集を所持していないが、論文集再編によって、部門として具体的な業務が発生することがあり得るので、本動向については、注視しておく必要があるとの意見が出された。
- ・論文集再編が進み、複合関係の部門を作成した場合、複合構造委員会が現論文集編集小委員会と同様の業務を行うことになるであろうとの意見が出された。
- ・論文集再編が進んだ際、複合関係の部門を設置するとなったら、例えば、“複合・合成部門”という名前になるであろう、との意見が出された。
- ・葛西幹事によると論文集再編は、小林編集委員会委員長（京大）より各調査研究小委員会に個別に説明したい意向があるとのことであるので、今後の幹事会の開催に合わせて説明いただく場を設ける方向で検討したい。ただし、できる限り、ご説明いただくというより、本委員会からの質問およびコメント等をお伝えするような場としたい。
- ・当面は葛西幹事が情報収集を行い、幹事会に最新の情報を提供することとする。

(b) 英文図書の対応

- ・土木学会としては国際貢献も求められているので、英文図書が赤字でもやむを得ないという考え方もある。
- ・基本的には、出版部門と国際部門で提案している英文図書の「出版会計の課題と改善策(案)」に賛成するが、それが、調査研究委員会の予算減額とならないように、出版委員会で英文化する図書の選定など管理をしていただきたい。
- ・上記の点について出版部門および国際部門に連絡する。

(4) 平成21年度出版企画書（資料 幹9-4-1～幹9-4-3）

渡辺幹事長から、平成21年度の出版企画書について代理説明があった。「FRPを用いた鋼部材の補修・補強の設計・施工（仮称）」と「FRP歩道橋の性能規定型設計ガイドライン（案）（仮称）」について下記の議論が行われた。

(a) 複合構造レポート05「FRPを用いた鋼部材の補修・補強の設計・施工（仮称）」

- ・資料幹9-4-1の確認事項（1）～（8）については了承された。
- ・鈴木小委員会委員長より出版委員会を通さずに出すことは可能か？との質問があった。
→小委員会で買い取り、講習会収支の中で赤字にならないようにする方法がある。コンクリート委員会の技術シリーズはこの方法を採用しているとのことである。なお、今までは、複合構造委員会としては出版委員会をすべて通してきた。
- ・幹事会としては、小委員会（委員の公募の有無に関わらず）の最終成果については講習会等で公表するようにして欲しい。出版委員会を通してレポートを出すことを最終目標で委員会活動をして欲しい。
- ・出版委員会を通して、成果を出版することによって、学会会員に還元することができる。
- ・タイトルは、小委員会名に合わせて“複合”がなくてよいのか？
→内容が鋼に限定されているため、現案通りとする。

- ・上記の点について小委員会で再検討する。ただし、講習会での参加人数で出版費用が賄えるように価格を見直して、出版企画書は出すようにしてもらう。

(b) 複合レポート 04「FRP 歩道橋の性能規定型設計ガイドライン（案）（仮称）」

- ・FRP 複合橋梁小委員会としては、オーソライズされたものを“ガイドライン”として講習会開催に合わせて出版したい。構成も示方書や指針と同様としている。
- ・「成果に関する申し合わせ」に基づくと、原則としては第二種研究小委員会では指針やガイドラインを作ることはできず、レポートを小委員会の成果として作成するものであり、例外を作るべきではない。
- ・FRP 複合橋梁小委員会の成果をガイドライン（試案あるいは私案）とする方法もあるが、案がとれるときに、内容の変更がほとんどなくレポートからシリーズに変更のみというのはよくない。
- ・講習会では、小委員会の成果について簡単に報告し、内容の紹介まではしない。講習会後にオーソライズするための小委員会を立ち上げて、シリーズとして出すようにする。
- ・FRP 関係の委員会活動は複合構造委員会が立ち上がる前から継続してきた経緯があるので、例外的な扱いとする。今後の小委員会ではこういうことがないようにする。
- ・オーソライズするための小委員会は第一種委員会として立ち上げる。この小委員会は単発的となるが、今回は特別である。継続が必要な場合には示方書小委員会が引き継ぐ。
- ・オーソライズするための小委員会のメンバーは、現小委員会のメンバーを含めて、幹事会において委員案を選定する。
- ・来年 1 月の複合構造委員会で審議するため、次々回幹事会（12 月）に小委員会案について審議する。

(5) 現状調査小委員会・新材料小委員会合同講習会報告（資料 幹 9-5）

古市幹事より、現状調査小委員会・新材料小委員会合同講習会の報告があった。86 名の参加者があり、参加費未納者が 1 名いるため確定ではないが、3 万円の黒字になったことが報告された。

- ・出版物（テキスト）の単価は部数でいたい決まっている。見直すのがいいのでは？
次の講習会（維持管理小委員会の講習会の予定）で行事計画書を作成する際に検討する。
- ・現状調査小委員会、新技術小委員会の活動は終了。両小委員会とも今のところ継続の予定はない。
- ・1 月の複合構造委員会で両小委員会の成果の概要を報告して頂く。

(6) FRP 複合構造・橋梁シンポジウムの実施について（資料 幹 9-6-1,9-6-2）

西崎幹事より、FRP 複合構造・橋梁シンポジウムの実施方法と土木学会誌 11 月号への会告案について説明があった。

- ・会告案の問い合わせ先は学会事務局岡田さんに変更する。
- ・共催については、学会事務局から通常の方法でお願いをする。
- ・出版企画書は取り下げる。そのため、「FRP を用いた鋼部材の補修・補強の設計・施工（仮称）」は複合構造レポート 04 となる。

(7) 新小委員会の設置案（資料 9-7）

渡辺幹事長より、新小委員会の設置案について、前回幹事会後の釧路空港内の打合せ結果について説明があった。

- ・9A は、大学の講義等でニーズがあるなら改訂を考える必要がある。大工大では学部生の講義で使用しているとのことである。9A の最近の出版部数を確認する必要がある。
- ・大山幹事が 9A の見直すべき点を抽出して次回幹事会に提出頂く。それをもとに改訂するか

どうかを検討する.

- ・ 現状調査小委員会では, 9A は見直すべき点が少なく, 9B の見直しを当初計画していたとの説明があった,

(8) その他

- ・ 渡辺幹事長より本間幹事の所属変更の連絡があった.
- ・ HP に複合構造標準示方書小委員会を掲載する. 田中幹事より設立趣意書や名簿を山口幹事に送る. また, 終了した小委員会(現状調査小委員会, 新技術小委員会)は終了したことがわかるように HP を変更する.
- ・ 渡辺幹事長より次期委員長の選出スケジュールについて概要説明があった. 前回(一昨年)のスケジュールを参考に, 12 月下旬頃より選挙を開始する予定である.
- ・ 羽田空港見学(9/30)は9名参加予定. 詳細な案内を田中幹事から送って頂く.
- ・ FRP 補修補強小委員会から, レポート作成のために6ヶ月期間延期の話があった. ただし, 年度末では講習会が集まらない可能性があるので, 講習会の開催(小委員会の期間後でも OK)やレポート作成作業を含めて, 再度小委員会で検討して頂く.
- ・ 次回の開催は, 10 月 31 日 14 時~17 時(場所 土木学会)とする.
次々回の開催は, 12 月 12 日~13 日(場所 鳥取予定)とする.

以上(記録・文責 池田学)